
4 ever

IRIS

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

4ever

【著者名】

IZUMI

【あらすじ】

幼なじみ4人組が
4年ぶりに同クラになつたのを
きっかけに
恋愛・友情など様々な問題を乗り越えながら本当に大切な物をみつけだすお話です。

始業式（前書き）

初投稿です！

おかしい部分もあると思いますが最後まで読んで頂けたら
幸せです！！

始業式

「ちょっと…秀人…もう8時よ? ?」

「わかつてるよ…行つてくる」

そう言って中山 秀人「なかやま しゅうと」は勢いよく玄関を飛び出した。

「わらい!!」

下に降りるとすでに3人は待ちくたびれている、といった感じだった。

「始業式から遅刻するつもり? ?」

髪をショートにした椿が呆れながら言った。

今日から中学最後の1年が始まる。

俺はいつものように幼なじみである三神 香恋「みかみ かれん」と高杉 星也「たかすぎ せいや」そして倉持 椿「くらもち つばき」と共に学校へ向かった。

「全然クラス表見えねー」

少し落ち込みながら星也が呟いた。

「香恋見て来る」

と言しながら人混みの中に消えていった。

「秀がもつと早く来てればねえ…」

ヒソヒソ言しながら星也と椿が冷たい視線を送ってくる。

「はいはい、すいませんでしたー！」

「見てきたよー！」

と香恋が満面の笑みで帰つて來た。

「俺、星也と一緒に？？」

「みんな組だよー！」

「えつーー？マジ？」

香恋を除く3人の声が重なつた。

「みんな一緒になるの小5以来だね」

香恋が嬉しそうに手を細めながら呟いた。

「教室行こ」

星也に言われて4人は教室へと向かっていった。

俺達が教室に着いた頃には、すでにクラス内でいくつかのグループが出来ていた。

だが部活仲間がたくさんいるので困ることはなさそうだ。

通路側の隣は椿だった。

香恋と秀人は自分の席に荷物を置くと俺と椿の席に駆け寄ってきた。

「委員会入る?」

「俺、前期はやめとく」

「香恋も」

「星也は?」

「えつ?ああ…入るつかな」

俺は4人が一緒のクラスになったことにあまりいい気がしなかった。
3人はあの事を忘れているようだつた。

「星也!体育館行くぞ」

秀人に呼ばれて我に帰つた。

4年前のあの時のようにならなければいいが…

そう願いながら俺は体育館へ向かった。

始業式（後書き）

最後まで読んで頂きありがとうございました！

次回から登場人物のプロフィールを載せていく予定です！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5321ba/>

4 ever

2012年1月14日19時54分発行